

(西暦) 2024年7月10日

総排泄腔遺残症の治療のため当院に入院されていた患者さんの 診療情報を用いた臨床研究に対するご協力をお願い

研究責任者 所属 小児外科 職名 科長
氏名 畠山 理
実務責任者 所属 小児外科 職名 フェロー
氏名 福井 慶介
連絡先電話番号 PHS 38083

このたび当院では、上記のご病気で入院されていた患者さんの診療情報を用いた下記の研究を実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。この研究を実施することによる患者さんへの新たな負担は一切ありません。また患者さんのプライバシー保護については最善を尽くします。本研究への協力を望まれない患者さんは、その旨、福井 慶介までご連絡をお願いします。

1 対象となる方

西暦 2015年1月より 2023年12月までの間に、小児外科ないしは泌尿器科にて総排泄腔遺残症の診療を受けた方。

2 研究課題名

総排泄腔遺残症における腹腔鏡下直腸授動術の有用性に関する検討

3 研究実施機関

診療科・小児外科

4 本研究の意義、目的、方法

総排泄腔遺残症に対する根治術には複雑な操作を要します。従来は泌尿生殖器、直腸肛門の経路を再建するにあたり、会陰部からの操作を中心とした術式を行っていましたが、近年は直腸肛門奇形（鎖肛）の術式の発展に伴って、腹腔鏡操作を併用した手術を行っています。当院での腹腔鏡操作による直腸授動操作は、従来から行われている方法と比べて合併症の少ない操作だと考えられます。そこでこれらを明らかにすることを目的として、兵庫県立こども病院で総排泄腔遺残症の診療を受けた患者様に対して、診療録と画像を用いた術式の優位性に関する比較調査を行います。本研究により新しい術式の有用性が明らかになることで、治療成績の向上に繋がることが期待されます。

5 協力をお願いする内容

診療録の閲覧、画像データの閲覧

6 本研究の実施期間

西暦 2024年7月10日～2025年3月31日（予定）

7 プライバシーの保護について

- 1) 本研究で取り扱う患者さんの個人情報、氏名と患者番号のみです。その他の個人情報（住所、電話番号など）は一切取り扱いません。
- 2) 本研究で取り扱う患者さんの診療情報は、個人情報をすべて削除し、第三者にはどなたのものかわからないデータ（匿名化データ）として使用します。
- 3) 患者さんの個人情報と匿名化データを結びつける情報（連結情報）は、本研究の個人情報管理者が研究終了まで厳重に管理し、研究の実施に必要な場合のみに参照します。また、研究終了時に【または倫理委員会に承認された破棄時点で】完全に抹消します。
- 4) なお連結情報は当院内のみで管理し、他の共同研究機関等には一切開示いたしません。

8 お問い合わせ

本研究に関する質問や確認のご依頼は、下記へご連絡下さい。

小児外科 フェロー 福井慶介 PHS 38083

以上